

# 子供の嘘言

文學士 倉橋惣三

是は同氏が東京帝國大學法醫學教室に於て通俗心理講話會の儘ふされたる時に演説せられたものである。

▲虚言には十三種 昔から嘘八百と稱へ虚言の數を制限されたが、今之れを心理學上から研究し更に實地に就いて説明を下すと子供の虚言を吐く場合を十三の項目に分類する事が出来る先づ始めは子供の想像に基くので大人の虚言とは大に趣きを異にし誠に無邪氣な惡意など少しもないのである之は遊戯に於ける虚言と、虚言と知らずに云ふ虚言とに分類する事が出来る

▲第一遊戯に於ける嘘 遊戯に於ける嘘とは例へば自分は軍人でもないのに棒切れなど擔いで『坊は大將だ』杯と軍ごつこをして遊ぶ之れは則ち遊戯に於ける嘘で此ごつこと云ふ言葉のつく遊戯には必ず嘘が多い併し子供には戲曲的本能が發揮されて居るから之れは實際叱つて矯正すべき嘘ではない

▲第二嘘と知らぬ嘘 虚言と知らずに云ふ嘘は子供に實例が澤山ある、詰り事實と想像の區別が少なく唯ごちや／＼になつて仕舞ふ『母様お庭に斯んな大きな蛇が居ました恐怖よ』と云つて飛んで来たから母親は直ぐ其場へ往つて見ると蚯蚓が梨の木の下に一匹死んで居た夫れが非常に怖かつたので豫て蛇は怖いものと聞いて居たのからソコで蚯蚓を矢張り蛇だと云つて訴へたのなどは其一例である

▲第三つひ言つて仕舞ふ嘘 次ぎは子供の感情に基くもので之れは三つに分類される即ちつひ言つて仕舞ふ嘘と意地づくの嘘と人を善はせる爲めの嘘である、つひ言つて仕舞ふ嘘と云ふのは例へば子供自身は左と云はうと思つて居ても父親が恐しい顔をして右だらうと云つて恫喝すると此恐しい顔色が子供の爲めに暗示となつて實際左だと思つて居てもつひ右だと云つて仕舞ふなどの嘘は之れに屬する

▲第四意地づくの嘘 意地づくの嘘と云ふのは子供が悪いことをして戸棚の中へでも入れられ懲戒

を受けたと、實際悔悟をなし且つ次第に空腹を訴へる故、今度戸を開けて呉れたら謝罪しようと思つて居る時、年齢も左程違はない弟が其處へ出て来て「何うだい、悪い事をしたんだから戸閉へ入れて御飯も喰べられないぢやないか、腹が減つたらう宜い氣味だ」と嘲笑されるも自分は悪い事をしたと知りつゝ、意地になつて「腹なんか減るものかい」と實際腹は減つても減らぬと嘘を吐く事のあるのは此項に屬する

▲第五人を喜ばす爲の嘘 人を喜ばす爲の虚言は一寸考へると阿諛と混同するやうな感が起らうけれど併し子供のは爲にするかべつつかでなく優しい感情から出るものである例へば非常に愛されて居る姉さんがあると子供は優しい感情から「姉さんのお手は奇麗ネエ」と褒める、之れなら別に咎むべき嘘とは云へぬが扱姉さんが自惚て實際自分の手は奇麗だから褒めたと思ひ直にか鰻頭の一つも與へる 遂に夫れが嵩じて子供は鰻頭を得たい爲めに嘘を吐くやうになる爾うなるとかべつつかと大差なき嘘になり優しい感情は失せて仕舞ふが扱

此方は味方に信實で敵に計略を施す嘘だ  
▲第六味方には信實敵には計略の嘘 倫理觀に基くものを二ツに分類が出来即ち一は味方には信實なれども敵には計略の嘘を吐くのと、一は俠氣の爲の嘘とである、併し吾人の觀たる倫理が果して子供の倫理觀と相一致するかと云ふに夫れは餘程觀方が違つて居やう、故に親とか或は教育の任に當るものは夫れは心得違ひであると云ふ事を諄々として子供に説いて聞かすべき性質のものだ、ソコで味方に信實でも敵には計略の嘘と云ふのは例へば同町内の子供同志なら頗る親切で且つ信實を盡すけれど併し横町の子供達には敵意を便んで計略の嘘を用ゐる彼等を陥れると云ふやうなので斯ういふ嘘を頭から叱り付けた處で子供は心服して矯正する筈のものでない

▲第七俠氣の嘘 俠氣の嘘と云ふ事の一例を示せば小學校で生徒が何か悪い事をする夫れを誰が仕たのやら教師は未だ發見する事が出来ぬので生徒一同を集めて之れを訊すが維一人白狀するものがないソコで或る一人の生徒は考ふるに自分は平生

教師の信用も薄し燒糞だから寧ろ犠牲になつて罪を引受けて遣らうと云ふやうなのが是れに屬する嘘である

▲第八みえ坊の嘘 夫れから子供の意志に基くもの、内で嘘榮に云ふ嘘と惡戲の嘘と夫れから言拔けの爲の嘘と自分の爲にたくらむ嘘との四つがある、虚榮の爲の嘘とは「何うだい僕の家には桐の箆笥があるがお前の家にも屹度あるだらう」子と友人の子供達から褒めそやされると實際は貧乏で開きな立派な箆笥はなくともツイ見榮の爲めに桐の箆笥があると嘘を吐いて仕舞う

▲第九惡戲の嘘 又惡戲の嘘と云ふのは例へば今那處へ熊が出て喰付かれる處だつたとお婆さんに咄す此お婆さんは何時此子供の云ふ事なら嘘でも眞實でもソーかいくと聞いて呉れるから又此お婆さんに惡戲をして遣らうと熊が出て来たなど

嘘を吐くのだ  
▲第十言拔けの爲の嘘 言拔けの爲の嘘は何人でも随分之れを口にするけれども既に子供の意志が働くと却々子供でも自分の罪を遁れん爲めの言拔

けをして知らずく嘘を吐いて仕舞う  
▲第十一自分の爲にたくらむ嘘 夫れから自分の爲にたくらむ嘘も言拔けの爲の嘘と相似て居るが總て斯ういふ嘘を言ふ子供に對し矯正を圖るには教育上大に手加減を要する事であらうと考へる

▲第十二癖の嘘、第十三病みの嘘 子供の道徳心が缺陷し夫れに基因する爲め嘘を吐くのに、癖の嘘と病氣の爲の嘘とがある、癖の嘘即ち平氣で嘘を吐き其れが癖になつたのは後天性に屬するもの又子供が一種の病氣の爲めに嘘を吐くのは是れ先天性に基くので斯ういふ種類に屬する嘘吐きの子供は宜しく低能兒教育に従事する教育家或は専門の醫師に診察を乞ふて矯正法の相談する事が必要である

▲子供の嘘言と大人との關係 子供が嘘を吐くのは是れを一面から云ふと之れ弱者の武器であるが叔子供の嘘言を吐く事に就き大人の罪を數立てて見ると随分澤山あるけれど先づ嘘も方便主義を濫用する事と次ぎに嘘の教唆即ち嘘で子供を釣り又

嘘を言つて子供に或る行爲をさせる事次が猜疑的態度以上の三項目は子供をして自ら嘘を覺えさせる大人の罪である。『甘酒進上此處迄お出で』など云つてチヨロ／＼歩きの子供を利慾で釣り出し折角其處まで危なげに歩いて來ると又手をたゝいて逃げて仕舞ひ甘酒進上を行つて居るやうなのは大人の嘘の教唆に屬するもので一方には小兒步行上の利益はあらうが子供の嘘を言ふ點からは大に一考を要すべき事と思ふ。

(完)

### 幼稚園問題二つ三つ

和田 實

是は過般本會六月常會に於て記者の講演したるもの、筆記です。多少不備の點もありましたので少し訂正を加へましたから其御察りて御覽下さい。

#### 一 幼稚園の任務

本日は別段耳新らしい事を御話すると云ふ譯ではありませぬが唯平常考へて居る一つ二つを御話して御批評を得たいと思ふのであります。第一に御

話したいと思ひますのは幼稚園の任務と云ふことに就いての一種の解決案であります。勿論幼稚園の仕事と云ふものは如何なるものであるかと云ふことに就いては色々の方面から色々に説明をしなければなりません。が其中の一つの考へ方に就いて申上げて見たいと思ふのであります。

御話をする順序として先づ御断りしなければならぬことは幼稚園教育と云ふこと、幼兒教育と云ふこととの意義は全く同一でないことと云ふことであります。是二つのものを混同することは色々と間違を起すもとでありますから能く注意しなければなりません。一体幼兒教育と云ふのは子供の生れ落ちてより學校に入る迄即ち學齡以前に於ける幼兒の教育の全部を含んで居ることと幼稚園教育と云ふ時は其幼兒教育の後半を占めて居る一部分の教育を云ふのであります。そこで此幼稚園の教育に就いて今日でもまだ半信半疑の狀態に居る人が教育者の中にも決して少くない様であります。併し是はだん／＼詮じ詰めて行くことと誠に道理のないことになるのであります。或は幼稚園教育の効